

1月18日の朝は今年初めての積雪となりました。朝5時の段階では神奈川県内に警報は出ておらず、電車の運休は確認できませんでしたが、学校付近の状況と天候の変化を考慮し臨時休校といたしました。後に分かったのですが、電車もかなり運行の調整（間引き運転）をしたようで、各駅には長い列ができたようでした。雪に弱い都市の交通機関の姿を改めて見た朝でした。今回は連絡の未確認で栗平駅まで来てしまう児童もなくてよかったです。保護者の皆様のご協力に感謝いたします。

【生活目標】

しばらく続いた生活目標は「気持ちのよいあいさつをしましょう」でした。多くの子どもたちと交わすことができる朝と帰りの挨拶、そして日中出会う子どもたちとは目と目で挨拶、「こんにちは」の挨拶、そしてさらに一言話をすることもできるようなよい雰囲気が作られています。

これから的生活目標は「時間について」をテーマにします。先日の朝会では、子どもたちに時間について考えてもらえるような話をしたつもりですが、どのように話したらよいか、悩むことの多いテーマでした。

子どもたちに問いかけてみました。「お家や学校で皆さんが時間について言われるのはどんなことですか」と。それに対して、「遊びに出かけたら何時まで帰ってくる？」「早く宿題をやってしまわないとできなくなるよ」「早く寝ないと朝起きられないよ」「朝起きてから宿題をやるのは無理だよ」などの声が返ってきました。実に当然のことを言われている子どもたちだと思いました。

時間を意識しながら生活していくことの大切さと、多くの人たちが時間を守って行動し、仕事をしてくれるお陰で毎日自分が安心して生活できていることに気づく必要があると話しました。また、時間を守ること、時間を大切にすることは、人との信頼関係を作る上でもとても大切なことであることを伝えました。そして自分が約束の時間を守れなかった場合、誰かに約束の時間を守ってもらえないかった場合にどういう気持ちになるか、自分がどう思われるかを考えもらいました。

最後に「自由」ってどんなこと？と聞いてみました。「自分で好きなことができる」というような意見の他に、「自分で責任を持って時間を使うことができる」というというものもありました。この発言が多くの子どもたちに何かを考えるヒントを与えてくれたように思いました。

・・・朝会に臨む・・・

私は今皆さんの大切な時間をいただいてお話をさせてもらっています。そう考えると皆さんの時間を無駄にしないようにしっかりとお話をしなければならないと思います。そう、責任重大です。

皆さんは、人の話を聞く時間というのは、常に話し手から聞き手への一方通行の活動だとは思ってはいないでしょうか。実は、「聞く」という活動は「考える」という活動に結びつくものであって、決して一方通行の活動ではないのです。私は皆さんに考える活動をしながら話を聞いてもらえるような朝会にしたいと思っています。

【人間の素晴らしい】

毎日の生活（学習、運動、遊びなど）において、自分にとってちょっと難しいことや面倒だと感じることに直面することがあります。そんなときに、努力すること、考えることを楽しみながら乗り越えようとする子と、「やりたくない・できないからやりたくない・難しいからやりたくない」ということを言ったり、態度で示したりして何とかそこから逃れようとする子がいます。

私たちは他の動物と大きく異なる力を持っていて、困難を乗り越えるために、考え、工夫することができます。その力を出せずにいるのは本当にもったいないことだと考えます。先日、6年生に算数の問題を質問されました、少し難しかったのですが、そのときに「こういう問題を考えるのは楽しいよね」と言うと、まわりの子から「えー？」という声が上がりました。こういうことを楽しむことが勉強なのに、と思う私でした。短時間で答えが出せないと困るような生活を子どもたちにさせてしまっているのでしょうか。

【新聞から・・・不登校について】

数日前の新聞で、「新たに不登校になる小中学生が増えている」という記事を見つけました。不登校というのは、心理的な理由などで年間30日以上欠席した場合を言います。

2014年度の全小中学生は10,120,736人で、そのうち不登校は122,902人（全体の約1.2%）でした。

前年度からの変化は、不登校であった生徒で中学校を卒業した人数が38,736人、復学した児童生徒が23,786人でその合計が62,522人とのことです。実は新たに不登校になった小中学生が65,807人となり、結果的には不登校の小中学生の数は増加傾向になることが分かります。

不登校のまま、中学校を卒業する生徒や、高等学校で不登校となる生徒がいることも心配なところです。このように不登校になってしまった子どもたちが増加する中で、桐光学園小学校でも、これまで以上に子どもたち一人ひとりの生活の様子をよく見ていくこと、学校や家庭で感じる子どもの変化についての情報の共有を大切にしていくかなければならないと考えます。